

講義名	行政学		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	岸野 啓一/村上 友章		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<p>主題と概要</p> <p>・この授業では、行政（地方自治体も含む）と行政学に関わる基本的な知識を学習してもらう。私たちの暮らしと密接な関係にある行政について学ぶことは、一社会人として意義があるし、とりわけ公務員志望者には必須である。講義は3部構成である。第1部「行政の歴史」では、行政の歴史を概説し、現在私たちが目にする行政の拡大と縮小の経緯を明らかにしていく。第2部「執政制度と行政制度」では、政治と行政の関係を取上げ、特に公務員の実態を明らかにしていく。第3部「公共政策と行政活動」では、政策が形作られるプロセスと具体的な政策課題を取り上げ、現代社会における行政の責任について考えてみたい。</p> <p>ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。そのため、授業内容も若干、修正していく予定である。ポータルをよく確認すること。</p>
--

<p>到達目標</p> <p>・行政学の基本的な概念やキーワードについての正確な知識を習得すること。 ・公務員制度や政官関係など現代の行政を支える制度的な仕組みについて正確に理解すること。 ・今日私たちが直面している政治的な諸問題が、どのような歴史的背景から生じているのかを理解すること。 ・行政学の基本概念を用いて、現在社会の諸問題について考察し、自分なりの立場や見解を説明できるようになること。</p>

<p>提出課題</p> <p>・基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された問題を解き、それらを「読書シート」にまとめて提出する。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の提出課題のあり方については適宜、ポータルに掲示する。よく確認すること。</p>
--

<p>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</p> <p>・毎回、予習箇所に基づく小テストを行い、その答えを授業中に解説する。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間のフィードバックのあり方については適宜、ポータルに掲示する。よく確認すること。</p>
--

<p>評価の基準</p> <p>・評価は、小テスト（60％）と期末レポート（40％）を合算して行なう。 教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうか、評価の基準となる。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の評価のあり方については適宜、ポータルに掲示する。よく確認すること。</p>

<p>履修にあたっての注意・助言他</p> <p>・「政治学」の授業をあらかじめ履修しておくことが望ましい。 ・授業内で小テストを行うので、予習（「読書シート」への記載）は必ず行って参加することになる。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の評価のあり方については適宜、ポータルに掲示する。よく確認すること。</p>

<p>教科書</p> <p>・はじめの行政学。伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔 有斐閣 2090 978-4-641-15035-5</p>

<p>プリント資料及び参考文献</p> <p>・授業ごとに適宜、配布する。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間、資料はポータルにアップする。よく確認すること。</p>
--

<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 行政とは何か（1） 3. 行政とは何か（2） 4. 政府はなぜ必要か 5. 大きくなる政府の役割 6. 新しい行政の見方 7. 国と自治体を動かすしくみ 8. 政府の姿 9. 行政を担う人々 10. 変化する日本の行政 11. 行政活動をデザインする 12. 法律・条例をつくる 13. 予算をつくる 14. 行政と社会のインターフェース 15. 期末試験
--

<p>授業形態（アクティブ・ラーニング）</p> <p><input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p><input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>
--

<p>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>・提出課題である「読書シート」の作成に2時間、復習に1時間を当てることとする。 ・ただし、本授業は当分の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。したがって、授業時間（90分）も含めて、しっかりと課題作成に取り組むこと。</p>
--

<p>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</p>

<p>実務経験の有無及び活用</p>

<p>備考</p> <p>・履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。</p>
--